

生月まち協 だより

第58号

令和4年2月15日発行



生月地区まちづくり
運営協議会

TEL/FAX 0950-29-9080



壁画製作事業より (記事参照)

壁画製作始動



下絵を確認する子ども達

今年度も『生月漁港防波堤壁画製作事業』が始まりました。この事業は海の景観を良くしようと始められたもので、生月漁協・生月小学校PTA・当協議会が合同で行っています。毎年生小6年生の卒業記念も兼ねて壁画を製作しており、今年度卒業生の16名が下絵を切り抜く作業を1月20日(木)・21日(金)に行いました。初めての作業に苦戦していた16名でしたが、出来上がった下絵をみて「おお〜！」と驚きと感動の声をあげていました。今年はどんな魚が登場するのか。完成まで楽しみにお待ちください。



【3月中旬開催予定】絶景の道ハイキング

上記事業を予定しておりましたが、部会にて協議したところ現在のコロナの状況では今年度内の開催は難しいと判断し、中止と決定しました。楽しみにしていた方々には大変残念なお知らせになり申し訳ありません。



古き世の 火色ぞ動く 野焼きかな (飯田蛇笏)

近くは、山頭草原の野焼き、川内峠の野焼きなど二月から三月にかけて全国各地で野焼き山焼きが行われます。今では、春先の風物詩となっていますが、この作業は古代から続く大切なものでした。枯れた雑草や雑木を焼き払って害虫を駆除し残された草木灰を肥料としてそば、粟(あわ)、稗(ひえ)、大豆などを育てていました。

いわゆる焼き畑農業というものです。しかし、最近では畑が弱っていくことや環境への配慮など様々な事情でお目にかかることが少なくなりました。

小生は、消防団員の立場で山頭草原の野焼き現場に立ち会ったことがあります。枯草に火を入れると炎は潮が引いていくように瞬く間に広がり、そのスピードたるや人が駆ける速度など到底及ばないほどでした。

外国で山火事が何日も続くという報道に接しますが、山頭草原での体験から準備や用意がないとあのようになるのは必定だろうと納得しました。ただ、野焼きの後には、真っ黒な焼け野原みたいになるのですが、時間がたつとすぐに新しい草が芽吹き再び青々とした草原に戻るので自然の力強さとともにちょっぴり不思議です。

これから農作業が盛んになる季節を迎えます。田んぼや畔で、草を焼く光景を目にしますが、消防が出勤するような事態にならないことを祈っています。節分が過ぎ、春の足音がひたひたと聞こえてきているように感じます。なのででしょうか、少しワクワクが高まっています。(学)

